

2017. 7. 8 (土)

会社員 成田 隆浩 57
(さいたま市大宮区)

リニア 課題残したまま

状態だ。

それでもなお強引にリニア建設

六月下旬、東京での「ストップ・リニア! 訴訟一周年記念講演会&シンポジウム」に参加した。

JR東海が建設を進めている「リニア中央新幹線」に反対する七百三十八人が原告団を形成した。国に対して工事計画認可の取り消しを求めて、東京地裁に訴訟を起して一周年を迎えたことを記念し開催された。

リニア計画は、南アルプスにトンネルを通す。ほとんどが大深度地下を走ることによる動植物に与える影響や、トンネルを掘った際

ミラー

に生じる残土をどうするのかといった環境問題が心配される。また、磁力により浮上・走行する際に発生する強力な磁場による健康被害の問題もある。さらに、異常時に大深度地下から乗客を避難させるための安全面でも課題がある。

JR東海社長自らが「絶対にペイしない」と言い切った経済的問題など、多くの克服すべき課題を積み残したままの建設になった。

JR東海の主催する各地の説明会も十分な説明を得られなかったため、地域住民の反発を買っている

に突き進むのに疑問を感じざるを得ない。シンポジウムで講演に立ったジャーナリストの斎藤貴男氏は、それでもリニア計画が進む理由として、原発輸出と同じくリニアを輸出するという国家戦略に高められたからだと指摘していた。

この国の国家戦略は、このところ間違いだらけであるのだから、マスコミや野党にしっかりとチェック機能を果たしてもらいたい。いや、われわれ国民自身がこうした問題に目を光らせなければならぬのではないのか。